



いこんで広島や長崎の街を被ばく者の姿を求めて歩き回った。その中で、一番辛かったのは、マスコミヤ私の年中行事的取材(こう言いい切るのは他の取材者に対する冒

瀆かも知れないが)に対して、その辺の事情を知りつくしたうえで、黙って熱い盛りの広島、長崎の街を案内してくれた被ばく者たちの行為であった。

「何か彼らに返してあげるものはないだろうか」と考えたが、当時の私に、今一步「ヒロシマやナガサキ」に踏みこませてもらえる新しいテーマはなかなか見つからなかった。だが「被ばく体験の風化」が進み、ヒロシマやナガサキに対する関心が失われていく一方この頃から原子力

初孫の誕生パーティを祝うマーシャルの人々。パーティには親せき、知人が二〇〇人以上も招かれ、盛大に祝うのが、当地の習慣だ。

発電所の建設が各地で始まり、姿を変えた「新しい核」が再び日本に登場しつつあった。「ビキニ島に人が戻り、再び生活を始めたようだ」という話を聞きこんだ時、まっ先に考えたのは、「エッ! ビキニにも人が住んでいたのか」と言うことと、第五福竜丸と二十三人の乗組員に死の灰を浴びせたビキニ島の核実験後の「荒涼とした風景」だった。七四年七月から九月、ビキニとロンゲラップ島、七六年八月から十月、ビキニ島、七九年キリ島(ビキニ住民の仮移住の島)、八一年再びロンゲラップ島訪問と、私のマーシャル通いがはじまった。しかし、マーシャルから日本に帰ると、情報はとだえ、いまマーシャルの人びとが何を考え、何をしているのか全く伝ってこなかった。「モ、こうなればマーシャルに移り住んで日本とマーシャルのメッセンジャーになるしかない」と決めてから、三年近い日が経ってしまった。



カ月過ぎた。

※タイトルのエナーナとは、マーシャル語で「良くない、悪い、駄目だ」という意味。

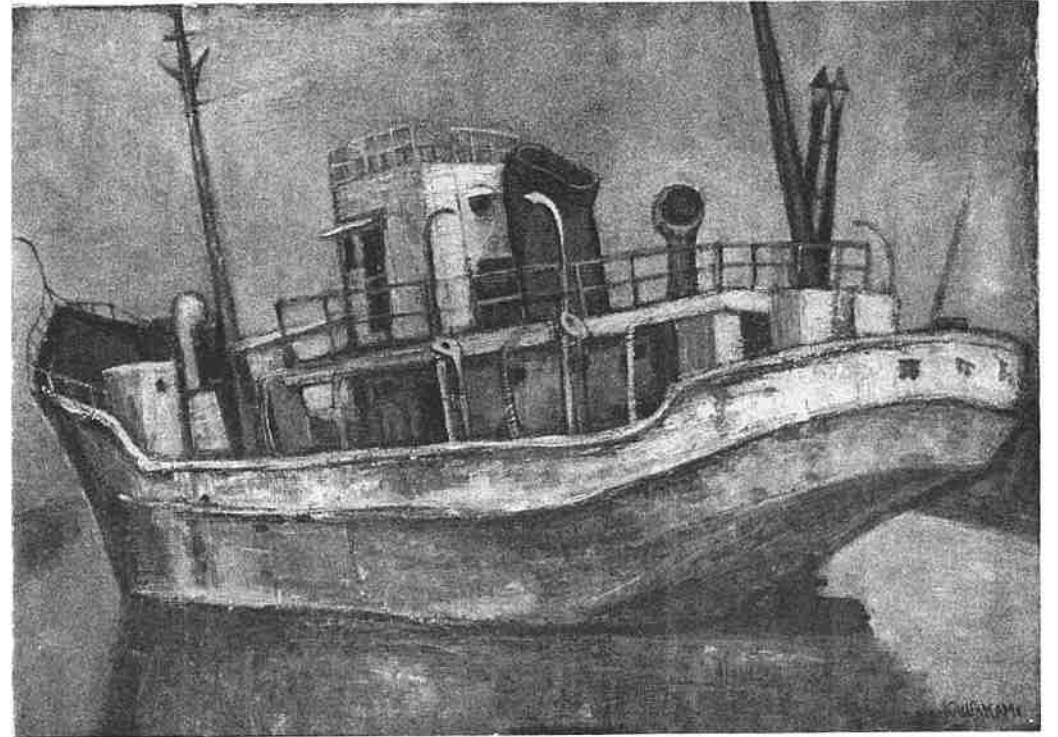


福竜丸だより

— 都立・第五福竜丸展示館ニュース —

(財) 第五福竜丸平和協会

〒136 東京都江東区夢の島3-2
都立・第五福竜丸展示館内
電話 (521) 8494



<「第五福竜丸」川上貫一画>

「売るための絵は描けない」と、絵はほとんど手離しませんでした。深川に来て五年になりますが、それまで王子で、文房具とたばこ屋をやって生計を立てていました。下町が好きで、いろいろな所を歩いて描いていたようです。「前にあった工場がつぶれていた」など話していました。滅びゆくものが好きだったようです。深川に来てからはアトリエで、油絵を教える人が好きで、仕事を終わってかけつけて来る青年を遅くまで、教えていました。絵を書く仲間の人たちをとて大事にしていました。江東区には文化がない、地域に根ざした文化を作らねばと、深川美術研究所や絵師の会を発足させ、「これから、一日六時間、八年を目標に、描いていこう。もっと感性を研ぎ上げて、人の二倍も三倍も、気合を入れて、東京の下町を描き続けようと思う」と、語っていたところでした……。

△故川上貫一氏夫人・照子さんのインタビューより▽

※川上貫一氏 一九二三年、東京生まれ。労働組合の活動家などを経て、四十歳で絵筆に専念。主体美術協会会員、下町の絵師、と称し、「第五福竜丸」の作品も残す。五年前より江東区に在住。八五年八月二十九日、心不全で死去。



写真・文 島田 興生

一九八五年五月一日、私と妻の谷子はビキニ水爆実験や第五福竜丸

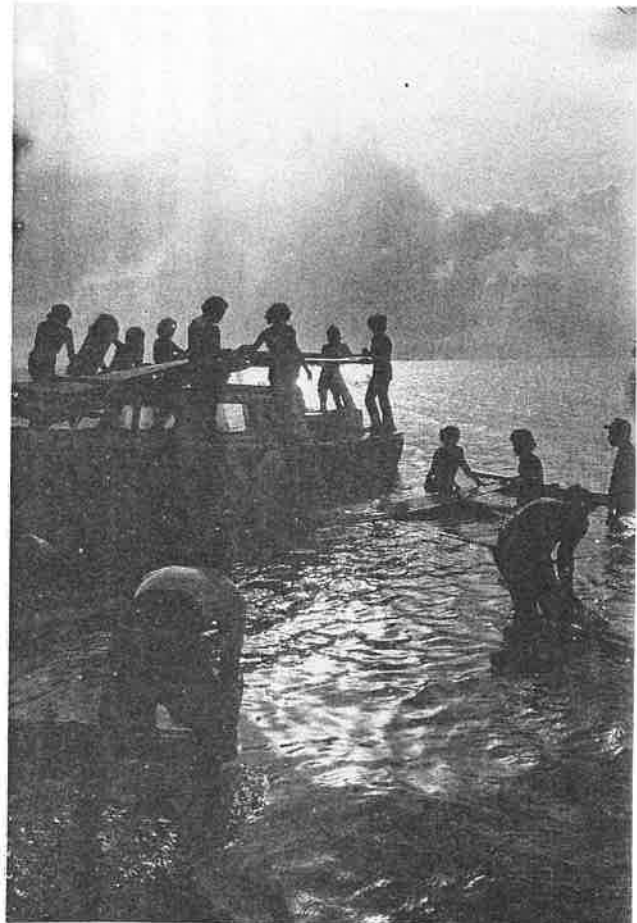
第一回 ヒロシマから マーシャルへ

丸の被ばく地点だった中部太平洋マーシャル諸島の「首都」マジュー口島に引越してきた。当地に移住することになった理由を少し書かなければ、最近では

「二十一世紀はまちがいなく太平洋の時代」と言われる太平洋の小さな島じま、ミクロネシアやポリネシアに住む人びとと、私を含めた日本人との関わりが明らかにならない、と思うので個人的なことになるがここに記しておきたいと思う。

フリーのカメラマンであった私を、マーシャル諸島とミクロネシアに眼を向けさせるきっかけになったのは、やはり「ヒロシマとナガサキ」だった。

十年以上も前のことになるが、仕事柄、毎年八月には広島と長崎の



今年五月、一九五四年三月一日のビキニ水爆実験で死の灰を浴びたロンゲラップ住民の移住作業。遠方の船は、この移住を支援したのちニュージランドで爆破されたグリーンピスの「レインボー・ウオリア（虹の戦士）」号。

(五月十九日)



被ばく者を追う仕事が続いていた。マスコミの中でいわゆる「夏もの」と呼ばれ、この時期だけは原爆関係の記事や放送がぎやかになされ、すぐまた忘れ去られるのだが、それでも私たちはその年その年の新しいテーマを見つけるべく広島や長崎に乗りこんでいった。

何年か同じことを繰返すうちに言い知れぬ無力感にとらわれてしまった。当時は「被ばく体験の風化」がしきりに言われている頃でもあったが、それでも私たちは勢

被爆四十年

秋月 辰一郎

【連載】ヒロシマ・ナガサキ被爆四十年の中で(6)

被爆四〇年は被爆地長崎において、その節目として大した年であった。今年が原水禁世大会を統一大会として長崎で開かねばならなかった。地元の各市民団体の準備委員は統一大会のために努力を重ねた。しかしこれまで統一大会を重ねていた原水禁世大会も実質的に統一は困難であることを明らかにしたのである。

この事は重要な今年の出来事であった。統一ということはそれ自体に無理があったのである。イデオロギー政党による平和運動反核運動は、これまでの平和運動への貢献は評価出来るがそれが政党レベルでの活動であれば何処かで対立分裂となるのは当然である。

この事を被爆地の市民運動家たちが確かに見届けたことが意味があったと思う。これからの市民平和運動の型と方向を与えたと思う。これまで行動員数に頼っていた平和運動はあくまで個人に立脚

した各人々々々を尊重した集団の草根運動になっていくであろう。

今年広島市、長崎市が主催して世界平和連帯都市市長会議が開かれた。二十数ヶ国、百に近い都市の市長が八月六日・九日、広島・長崎に原爆が投下された日にその都市に参集して世界平和を語り合った。

主催者の人々平和センター長崎平和推進協会の裏方の人々の御苦労とまたその経費も非常なものであった。しかしそれにしては草の根市民の代表である自治体の首長の参集討論は、国益代表の会議である国連外交平和の会議とまた異なる身近な平和会議であった。

私もこれまで平和論の学者、国際法の権威の会議や国連大会のシンポジウム、NGOの学者の平和会議に出席して、それらとまた違った草の根の平和会議の有り方を見たのである。

日本には真の意味の草の根運動

の勢力はまだ存在していないようである。労働団体、政党団体の平和活動はあるが、一家族家族の集団の平和運動は殆んどない。この平和都市市長会議が一つの家族々の集りであるのかもしれない。これから日本の国内においても自治体の中の自由参加の平和運動が発展すると思う。「非核都市宣言」という法的な存在はそれとして家族の集りの自治体に期待したい。

◇

今年九月十日、ローマのヴァチカンにおいて長崎原爆展が長崎市によって開催された。大規模の原爆展ではないが、ヴァチカン内で開かれたことに意味があった。長崎出身の司祭修道女が現地で奉仕したのである。開会にはヨハネス・パウロ二世教皇も臨席してテープカットをされ、原爆被災のパネル写真をつぶさに御覧になり、そこに参集した人々に原爆と平和の説教をされた。そして一人々々に祝福の握手をされたのである。

ヨハネス・パウロ二世教皇は、三年前に日本に來られて東京、広島、長崎を巡礼された。

広島での平和アピール、長崎における五万人の大ミサの説教は、

日本いや世界の平和を願ひ核を廃絶しようと思う人々を鼓舞された。パウロ二世教皇は、特に日本の殉教者原爆被災者に心を痛めておられるのである。

私は反核兵器の問題は、イデオロギー或いは現実の政党政治を越えた人間の生命、人類の運命の問題と考えている。世界の宗教家や思想家が核兵器の悪魔的増大を何とか考えているのかと思う。黙している時ではない。

私も市長等とローマのヴァチカンから帰ったあと、長崎における「カトリック正義と平和の会」の全国大会に参加したのである。

長崎原爆はその爆心が浦上地区であった。カトリックの司祭、修道女、信者が非常に多く爆死した。そして今、浦上カトリック信者は復活した。

しかし、長崎のカトリック信者は反原爆に関してはむしろ沈黙を守ってきたのである。

昭和二十年代の永井隆氏の平和への祈りと願ひの多くの著作より外は、浦上のカトリック信者は沈黙していたのである。

この今年、長崎の浦上においてカトリックの正義(5頁へつづく)

(2頁よりつづく)と平和の会全
 国大会の開催も非常に大きな意味
 をもっていた。ミサにおける黒脇
 枢機脚の平和への説教、さらに、
 国連大学副学長・武者小路氏の平
 和講演も格調高く、その人間倫理
 からの核兵器反対の論調は人々に
 感銘と啓蒙を与えた。政治は政治
 において、生命の倫理は倫理にお
 いて、それぞれの核廃絶があるの
 である。
 これからのカトリック信者の立

第五福竜丸の悲惨は語る

—— 社会科見学「私の感想」「私の意見」より ——

岡 香 織

(前略) 漁業から帰ってきた福竜
 丸の乗組員の人々の姿の写真は外
 見は何でもないように見えました。
 でも私はどこかちがうところはな
 いかと思ってよくみてみると、一
 つだけみつきりました。「目」で
 す。普通の健康な人よりも、弱々
 しい目で、なんとなく人をにらむ
 ような、ぼーっと何かを見つめる
 ような目でした。何故、自分達だ
 けが、平和になったのに、このよ
 うな「災難」にあわなければなら

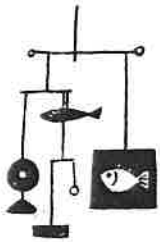
ないのだろうかと呼ぶような顔で
 した。福竜丸は爆発地点から一六
 ○kmの所にいました。何故、福竜
 丸がたたくさんの死の灰をあびたの
 かと思って読んでみると、キノコ
 雲は高度四万メートル、直径二〇〇
 キロ余で放射能を含んだチリは東
 へ流され、危険区域から六〇キロ
 離れたところまでいったというこ
 とです。だから放射能を含んだチ
 リが東へ流されなければ、福竜丸、
 乗組員の人々は無事だったのにと

いう、かわいそうというか、何と
 もい表せない感じがしました。
 (中略) 久保山さんは亡くなる前
 に「原水爆の被害者は私を最後に
 してほしい」といっています。しか
 し、現実の世界は何十回と原水爆
 の実験をしています。実験をした
 場所の近くの人々や、兵隊は後遺
 症で苦しんでいます。一体、実験
 をくり返して何になるのでしょうか。
 日本は広島、長崎、第五福竜
 丸が例にならなっていると思うの
 だけけれど……。国民の誰も、核を
 つかえとはいっていないのに、結
 局は政府が自分の国の力を強める
 ためにやっているように思えます。
 日本だって、核はもちこんでいな

ち上りを見つめたい。
 今秋のノーベル平和賞が「核戦
 争防止医師会」(IPPNW)に
 与えられた。この会が活動を始め
 て数年、かくも早くノーベル平和
 賞が与えられたのは、それほど核
 戦争が若し起こればという問題が
 今、人間生命の最大の問題となっ
 ているかである。それほど切迫し
 ているのである。「核戦争防止医
 師会」IPPNWは、日本ではむ
 しろ少数の医師である。この医師

会には東西両陣営、米ソの医師が
 多数参加している。
 政治の領域において、お互いの
 東西の率直な核問題の協議が困難
 の時に、社会的にも人間の生命に
 対しても責任ある医師の会は、そ
 の存在を高く評価されたのである。
 核問題は正に政治をこえている。
 思想・宗教の問題である。政治家
 の問題でなく、あらゆる責任ある
 人々の問題である。
 草の根の一人一人のいのちの問

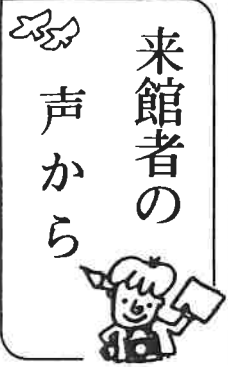
題である。
 被爆四〇年は、その変り目、節
 目であろう。
 (聖フランシスコ病院長)



いとかわいっているけれども、現に
 横田基地にかくしてあるという疑
 いがあります。日本政府は自国が
 一番ひどい災害にあっているのだ
 からわかると思うのだけれども：
 ……とにかく、一日も早く、核を
 使わないで、久保山さんの望みが
 かなえられる日がくるのを、私は
 願っています。
 (東大教育学部付属中三年)

田中健介氏逝去
 第五福竜丸平和協会監事、
 田中健介氏が、十月七日心不
 全肝不全のため、亡くなられ
 ました。慎しんで御冥福をお
 祈りいたします。

来館者の声から



すごいと思った。とってもおほ
 きかった。なみだがでそうだった。

埼玉の高校生です。現社のレポ
 ートのためいやいやきたんだけど、
 きてとっても良かったと思ってま
 す。もう二度と福竜丸のような船
 をだしてはいけません。この世界

から核爆弾がなくなることを望み
 ます(K・M)。

久保山愛吉さんのくるしい思い
 がつたわった。美さいの船があっ
 てよかった。こんなこわいって
 わかっているのに、なんで核を今
 もなおつくられているのだ。

信じられないようなことばかり
 でした。戦争は二度とおこしては
 いけないと思います。そのため
 私達もいろいろ、考えなければな
 らないと思いました。

十月展示館寸描——ニュージールランドからもお客さま

「ニュージールランドには、証人
 がない。核の恐ろしさは絵や本な
 どで知っていく。そういう意味か
 らも、水爆の証人、第五福竜丸の
 存在は興味深い」——十月二四日、
 ニュージールランドの若き活動家、
 ニッキー・ハガー氏が来館。ハガ
 ー氏は大学時代から核艦船反対同
 盟を組織するなどし、現在は、ニ
 ュージーランドの三〇〇余の平和
 団体の連合体、ピース・ムーブメ
 ント・アオテアロアのセンターの
 専従者。成田空港から直行して、

「少し疲れた」と語っていたが、
 館内を一時間余見学した後、マー
 シャル諸島島民のビデオ・テーブ
 も熱心に鑑賞。二七歳のハガー氏
 の瞳は、ニュージールランドの反核
 運動の高揚を表わすかのように、
 輝いていた。

電話で見学の申し込みのあい次
 ぐ十月・十一月だが今年も予定表
 からはみ出しそう。十月、文化祭
 の発表のための熱心な見学が多か
 ったが、埼玉県川越南高校二年三

こわいです！

これから大人になる私達が、し
 っかりして、二度とこの様なこと
 をくり返してはいけなないと、強く
 思いました(桐朋学園女子部、奥
 江麻衣子)。

ここは、ずーっと残しておいて、
 世界にうったえよう(大森真由)。
 平和のとうときを知った。原ば
 くのおそろしさも知った。早く、
 世界平和を(睦男)。

組は終日館内で学習、「ビキニ水爆
 被災資料集」も駆使して立派な「
 研究発表」を作りあげた。

トキワ松学園高校三百余名の女
 生徒が午前午後二回にわたり訪問
 小グループにわかれ一日説明にてん
 てこまい。同じ日に調布市桐朋中学
 の女生徒三百名も見学、修理中の
 船もはやいで見えた。前日には
 和歌山市から修学旅行中の河西中
 学校六百名の生徒が大挙押しかけ、
 また遠く長野県下伊那から青年団、
 平和委員会の若者が早朝六時、バ
 スで来館。米軍横田基地も帰途調
 し、核兵器廃絶を誓い合った。

編集後記

▼「一周忌まで絵を手離したくな
 い」との照子夫人の意向のもとに
 江東区平野にある故川上實一氏の
 アトリエは、生前そのままにのこ
 されていた。お弟子さんたちは今
 でも、思い出深いアトリエに毎週
 集まり、画を描いているとのこと。
 来年の一周忌には遺作展も計画さ
 れている。「燈台下暗し」——川
 上氏の存在を亡くなられて初めて
 知り、そう思わずにいられなかつ
 た。本当に惜しい方が亡くなられ
 てしまった。

▼今月より島田興生氏の連載が始
 まります。島田氏は十月中に一時
 帰国し、再びマニラへ向かった。
 奥さんと愛犬を伴っての二年間
 の滞在計画。熱い思いが伝わる現
 地ルポが期待出来そうです。(は)

●100万人参観者運動を！

85年10月来館者数	8,237名
通算1ヵ月平均来館者数	5,180名
当月1日平均来館者数	305名
通算来館者数	585,370名